

# INFORMATION RELEASE

ミサワホーム株式会社 〒163-0833 東京都新宿区西新宿 2-4-1 Tel.03(3349)8088 (広報直通)


2020年9月30日

## 第14回「キッズデザイン協議会会長賞」を受賞

- 「保育所における1歳児の『主体的な活動』からみた空間・環境に関する研究」
- 子どもの行動特性と建築の関連性に着目した研究
- キッズデザイン賞上位賞は3度目の受賞

ミサワホームのシンクタンクであるミサワホーム総合研究所(代表取締役社長 千原勝幸)が取り組んだ「保育所における1歳児の『主体的な活動』からみた空間・環境に関する研究」が、第14回キッズデザイン賞(主催 特定非営利活動法人キッズデザイン協議会/後援 経済産業省、消費者庁、内閣府)において全受賞作品237点の中から、上位賞の「キッズデザイン協議会会長賞」を受賞しました。なお、この研究はミサワホーム総合研究所の所員が所内の学位取得制度を利用して、日本女子大学博士課程での学位論文により得られた知見です。

### 【キッズデザイン協議会会長賞 受賞作品】



**保育所における1歳児の「主体的な活動」からみた空間・環境に関する研究**

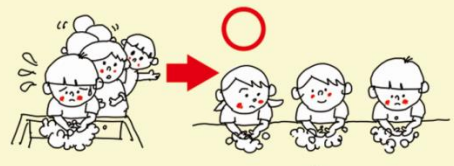
子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン リテラシー部門

※ミサワホーム総合研究所、日本女子大学定行まり子研究室、コピーアンドアソシエイツ、コピーソシオの4者共同応募

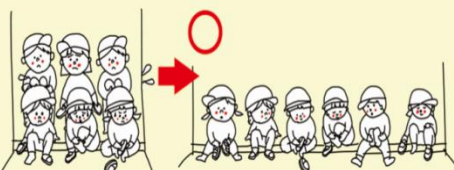
近年1・2才児における保育所等利用率は約5割にも及び、低年齢児から保育施設等で集団生活を始める子どもが増え、3歳未満児の養育環境として保育施設の空間環境の”質”の重要性が相対的に高まりつつあります。一方、待機児童問題の解決に向けて保育施設等の量的拡大が推進され、“保育の質”をどのように確保するか、課題になっています。

当研究では、子どもが主体的に遊び、健やかに生活できる良質な保育環境づくりを建築環境によってどのように支援できるかを考察しました。1歳児の保育に着目し、保育所における「基本的生活習慣行為に着目した空間構成設計」と「遊びの自発性・多様な身体活動を保証する外遊び環境」を2つの指針としてまとめました。

#### 1. 排泄や手洗いに使用する設備数(便器や手洗い水栓の数)を多めに用意



#### 2. 玄関はクラス人数規模に合わせて靴を履くスペース(上框部など)を用意する





子どもが待つ場面を減らす空間の工夫

ミサワホームグループは、今回の研究結果をもとに子どもたちの安全・安心と健やかな成長に貢献するための住まいの提案や商品開発を続けていく考えです。また、子ども視点での空間デザイン手法を確立できるよう、これからも積極的に研究・開発に取り組んでいきます。

## ◆研究内容について

### 指針1：基本的生活習慣行為に着目した空間構成

建築設計を通して子どもの主体的な活動を援助するには子どもの「待つ」場面を減らし、自分で身の回りのことをしやすい空間を用意することが重要であり、行為の流れに沿って部屋を移動する「スライド型」の空間構成、玄関等の設計を工夫することが有効とわかりました。

食事から午睡への移行場面に着目した空間構成		
空間構成	スライド型	ハブ型
	食事から午睡の行為の流れに沿って、行為ごとに利用空間をスライド移動する  20人以上時は特にスライド型が◎	午睡に使用する室を中心点に、隣接する位置にある食事室とトイレを行き来する 
長所	1スペース・1行為の対応関係であるため、落ち着いた環境の中で着替えや午睡に入ることが可能 子どもが待つ場面も比較的少ない	保育者が1か所(1室)で同時に複数行為に対応しやすい、動線が短い
短所	ハブ型に比べ保育者の人数を多く必要とする、動線が長くなる	午睡室で複数行為(着替え/午睡/排泄の順番待ち)が混在し午睡環境の落ち着きが確保しづらい

行為の流れと重なり方を視野に入れた平面

### 指針2：遊びの自発性・多様な身体活動を保証する外遊び環境

発達差の大きな1歳児が、自発的な遊びを通して多様な身体経験を確保するためには、園庭内の遊具や自然物など「物的環境要素」を豊かに盛り込んだ園庭構成(遊び庭型)が効果的であると認められました。

園庭構成タイプ	グラウンド型	遊び庭型	フットサル型	散歩
園庭構成の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的広さのある平坦なグラウンド部を有する。</li> <li>地面は土やコンクリート等。</li> <li>遊具等は、グラウンド部の周辺部に配置される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦なグラウンド部が狭い、あるいは有さない。</li> <li>草花や樹木などの自然物が豊富で、点在して配置される。</li> <li>遊具等は、園庭の周辺部に限らず、真ん中など、様々な位置に配置される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平坦なグラウンドかつ地面が芝生や人工芝で全面覆われている。</li> <li>遊具等が設置されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅街や緑道の中を歩く</li> </ul>
遊びの特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳未満児が使用できる遊具がない場合、ボール等の道具類に工夫が必要。</li> <li>砂場において、操作系の動作種類が充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然物を使った操作系の遊び、虫等を観察する姿が見られる。</li> <li>園庭内を自由に探索する姿がみられる。</li> <li>目的物となる要素が多いため、時間の経過とともに場所を移動して別の遊びを始める姿が多く見られる。このため、歩行数が比較的多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動範囲がネットフェンス等で仕切られており、自由に行き来できる。</li> <li>自然物がないため、走る、歩くといった移動系の動きに特化しやすい。</li> <li>地面に寝転ぶ、はうなどの遊びが見られる。</li> <li>保育者の働きかけ(鬼ごっこ、シャボン玉)、ボールの使用等の工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然物や風景についての会話ややり取りがみられる。</li> <li>自然物に手を伸ばす、触るなど。</li> <li>安全が確保されない場所、歩行が完成していない児は、移動車を使用する事が多い。(歩行、運動の機会にはならない)</li> </ul>

子どもの主体的な活動を大切にした環境」の視点から見た園庭等の環境構成別・子どもの身体活動の特徴

#### 【審査員講評】

子どもの行動特性と建築の関連性に関する有益な知見である。クラスの人数と保育室の空間構成、外遊びの場に関する課題について、観察や動作、身体活動量などの調査を実施している。午睡時間の落ち着き確保のためには、行為の流れで移動するスライド型の空間構成が良いとの知見も得られた。キッズデザインの空間開発に資する素晴らしい取組である。

※研究内容の詳細はミサワホーム総合研究所ホームページで紹介しています <https://soken.misawa.co.jp/news/20200807/1613/%29>

以上

(参考) ミサワホームのキッズデザイン賞受賞作品 (<https://www.misawa.co.jp/design/award/kids-design.html>)

\*この件に関するお問い合わせ先\*

ミサワホーム(株) 経営企画部コーポレートコミュニケーション課 奥本博之 星 沙織

TEL : 03-3349-8088 FAX : 03-5381-7838 E-Mail : Saori\_Hoshi@home.misawa.co.jp